

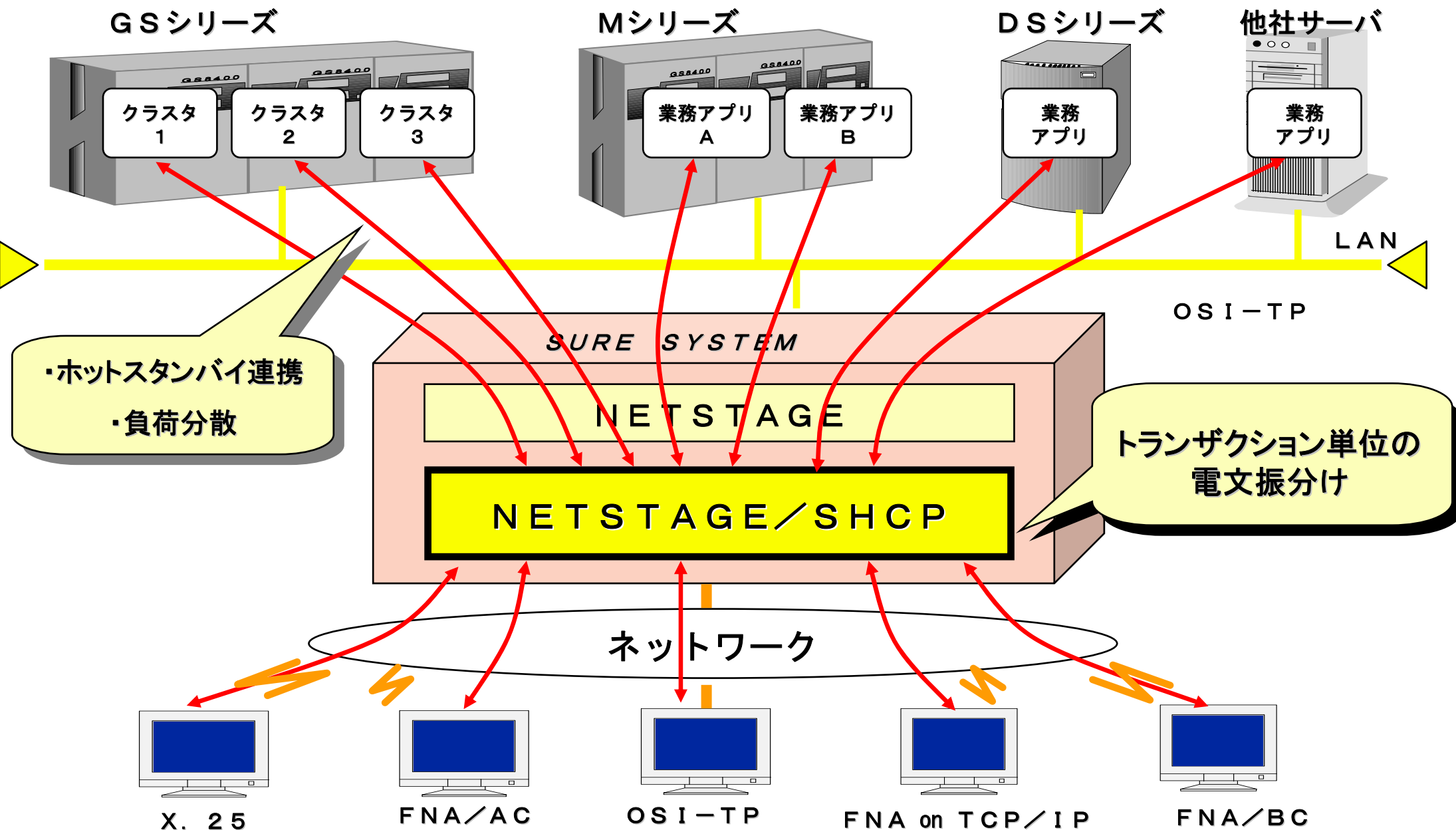
NETSTAGE / SHCPご紹介

– 第5版 – 2005.11.7

– Sure-Host Communication Program –

株式会社富士通アドバンスソリューションズ
ソリューション事業部 業種共通ソリューションプロジェクト

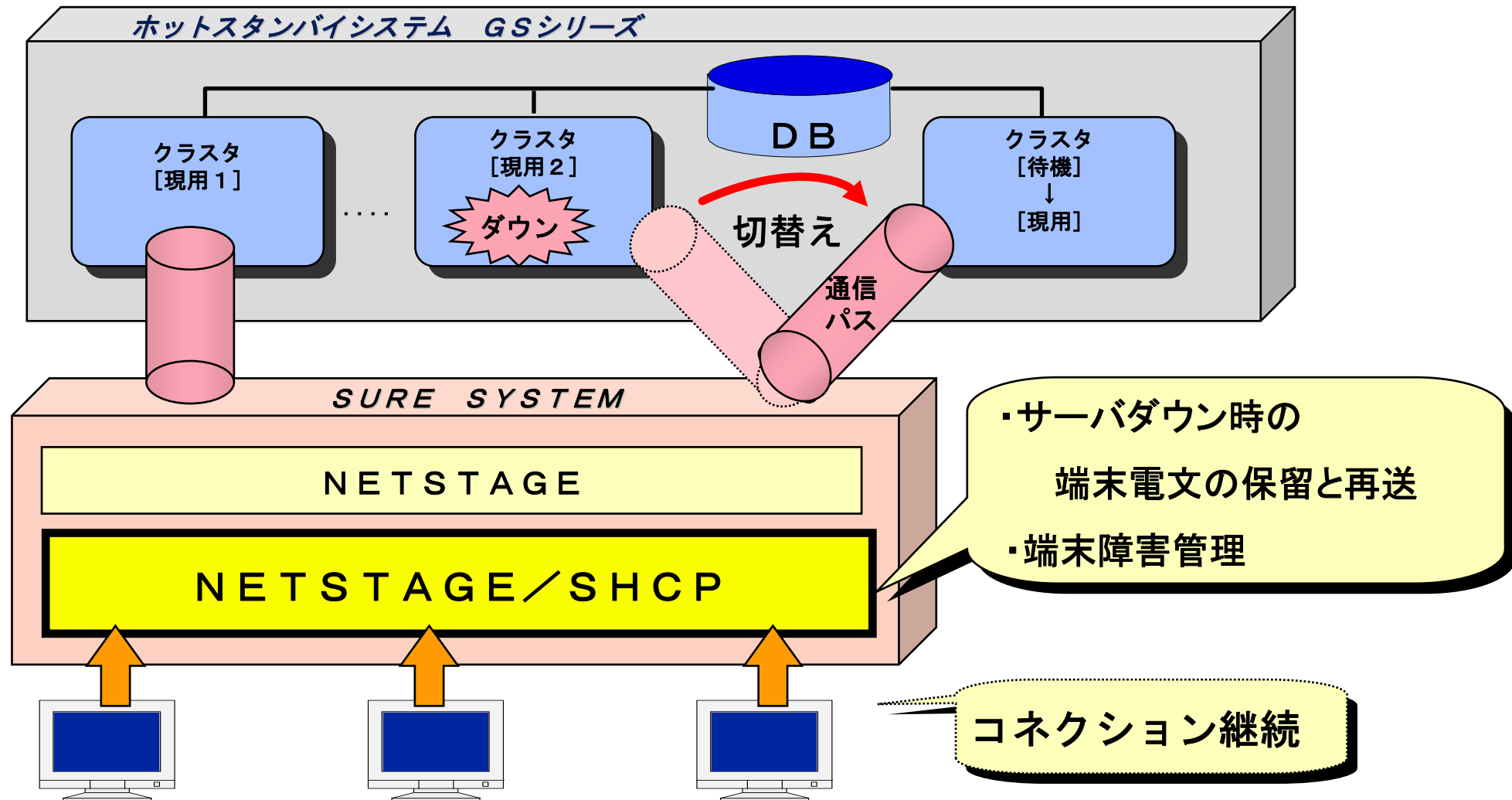
1. NETSTAGE/SHCPの位置づけ



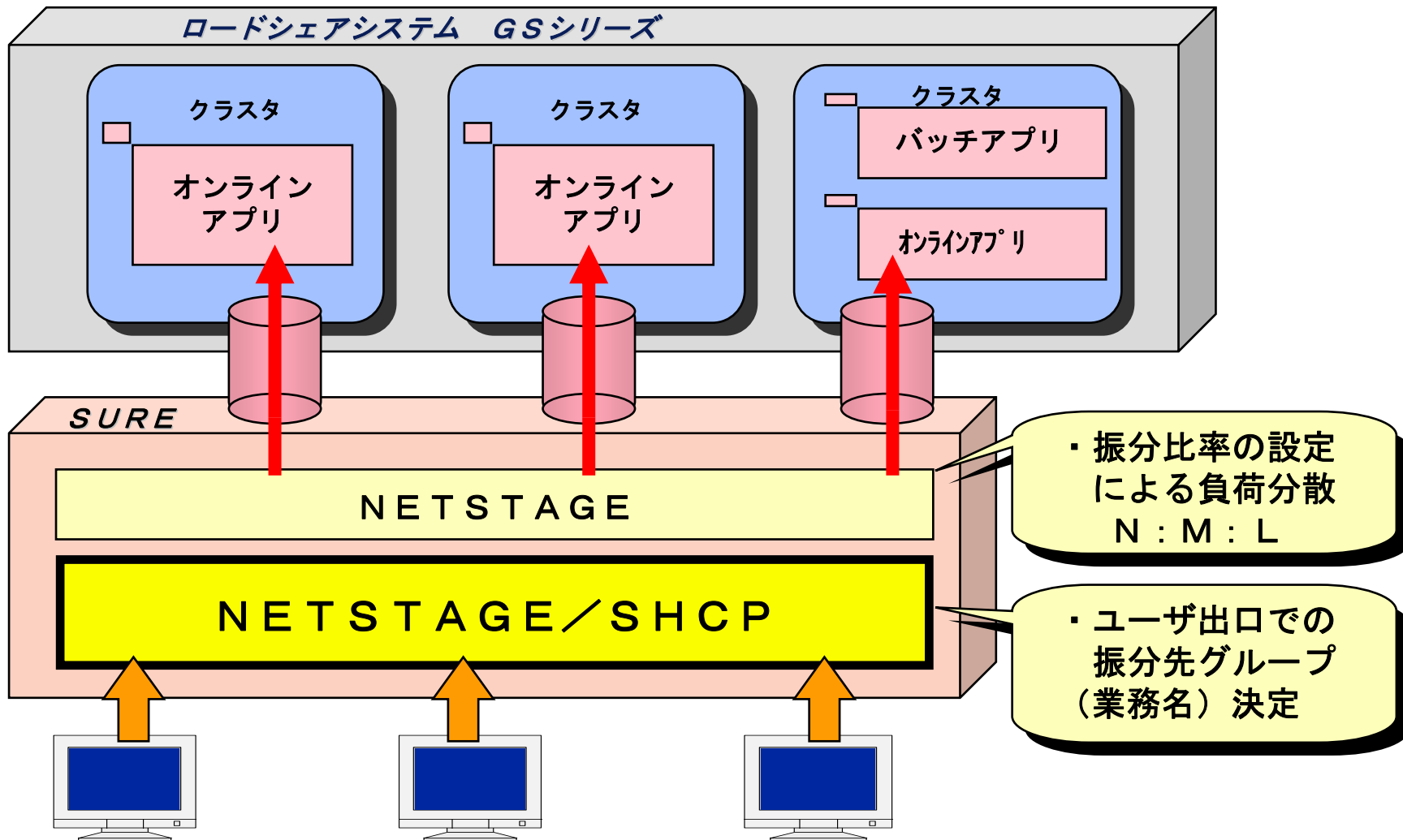
2. NETSTAGE/SHCP適用の狙い

(1) GS. Mシリーズホットスタンバイ連携

- ・利用者に対するGS, Mシリーズ業務全体の無停止化

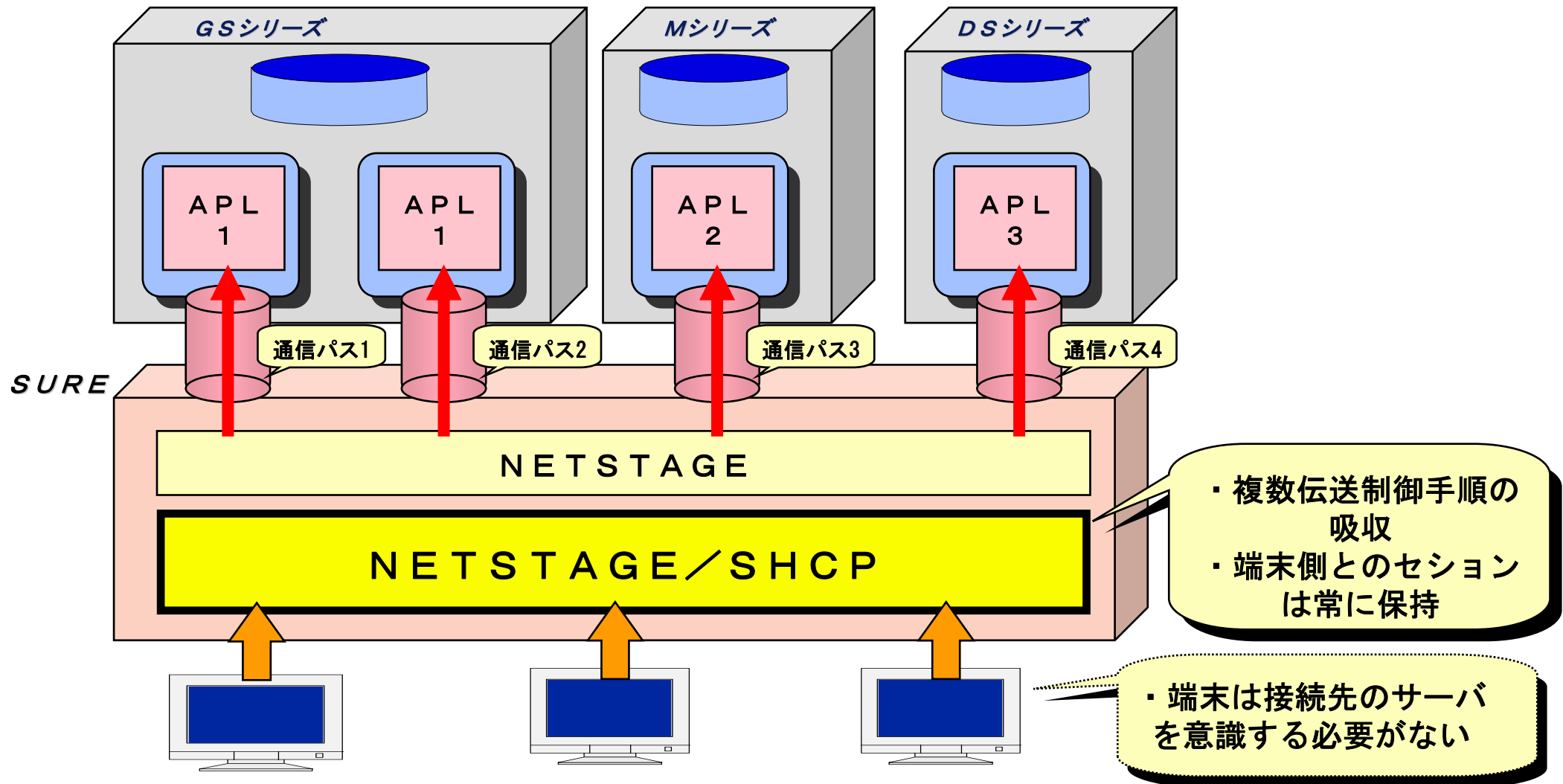


(2) GS. Mシリーズロードシェアシステムへの適用
・GSシリーズロードシェア形態でのクラスタ負荷分散



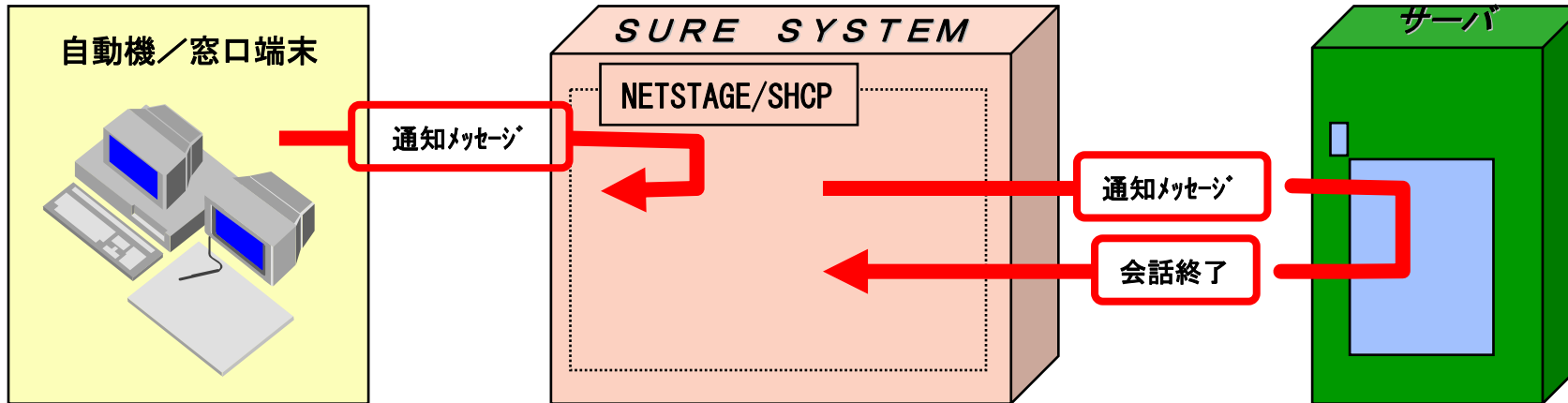
(3) 複数サーバへの端末メッセージの振分

- ・サーバ業務のトランザクション（会話）単位での振分

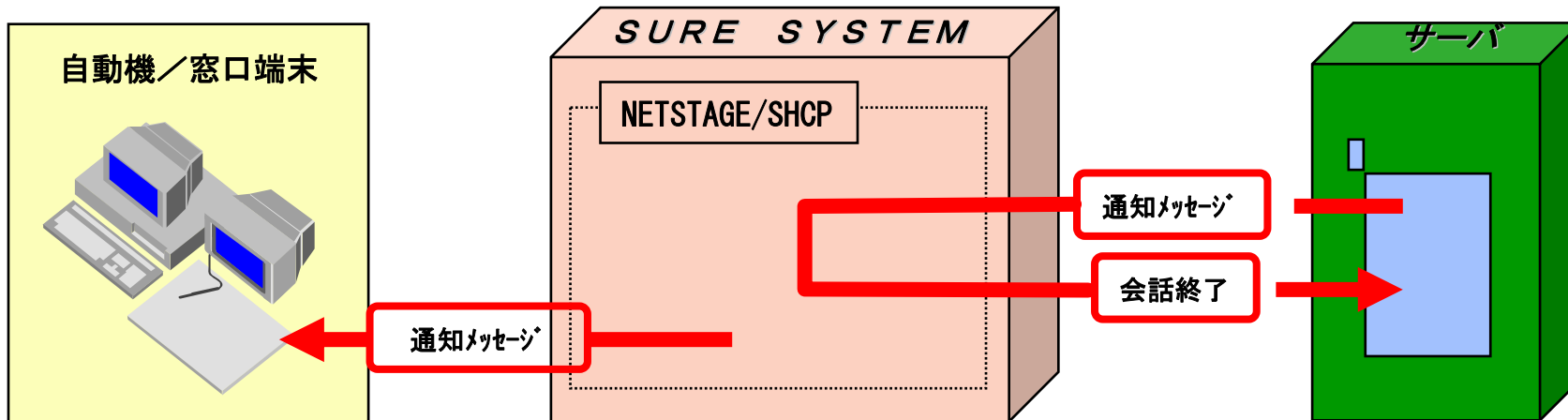


② 通知メッセージ中継

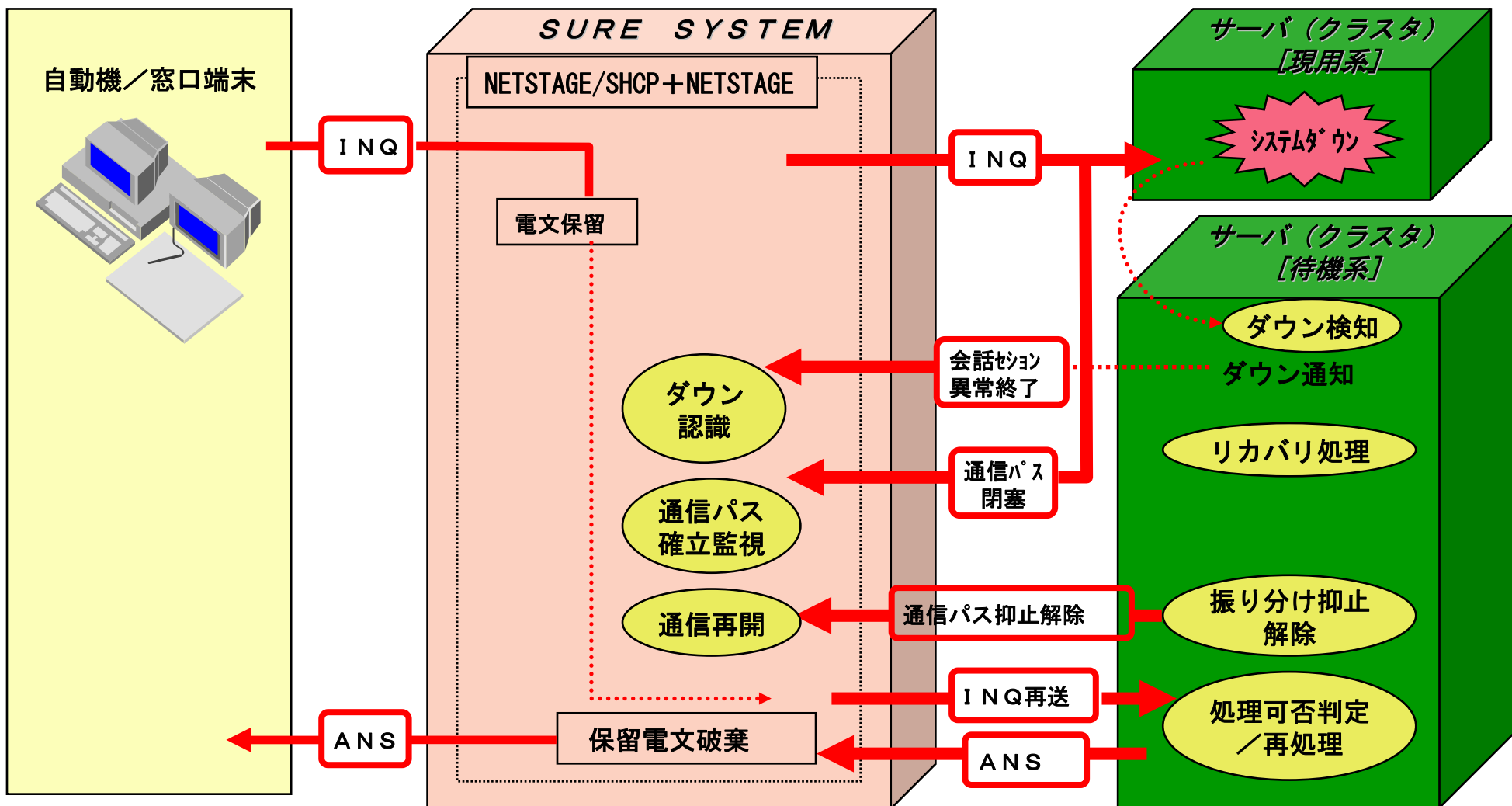
a) 端末 → サーバ



b) サーバ → 端末

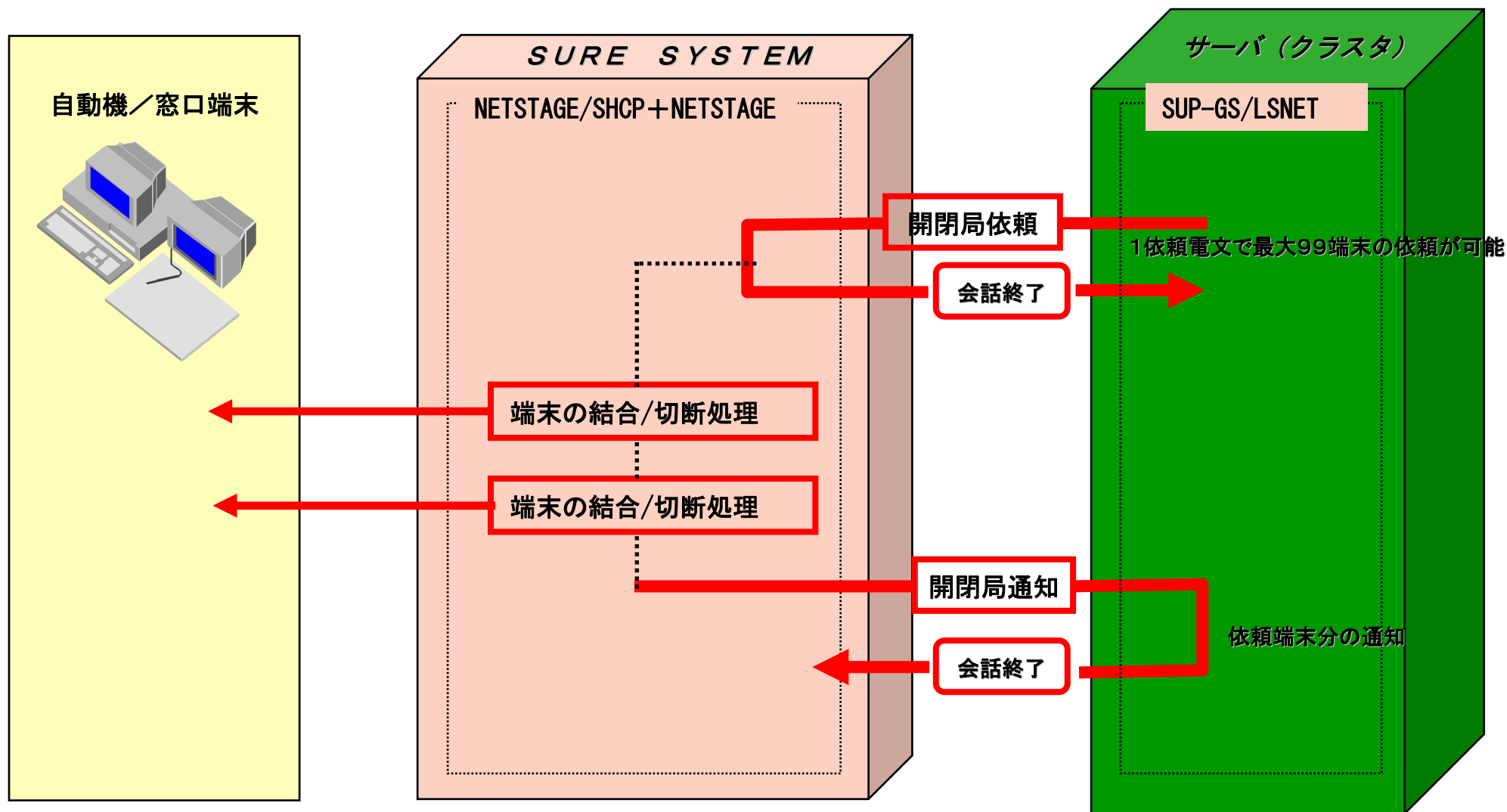


③ ホットスタンバイ時の再送



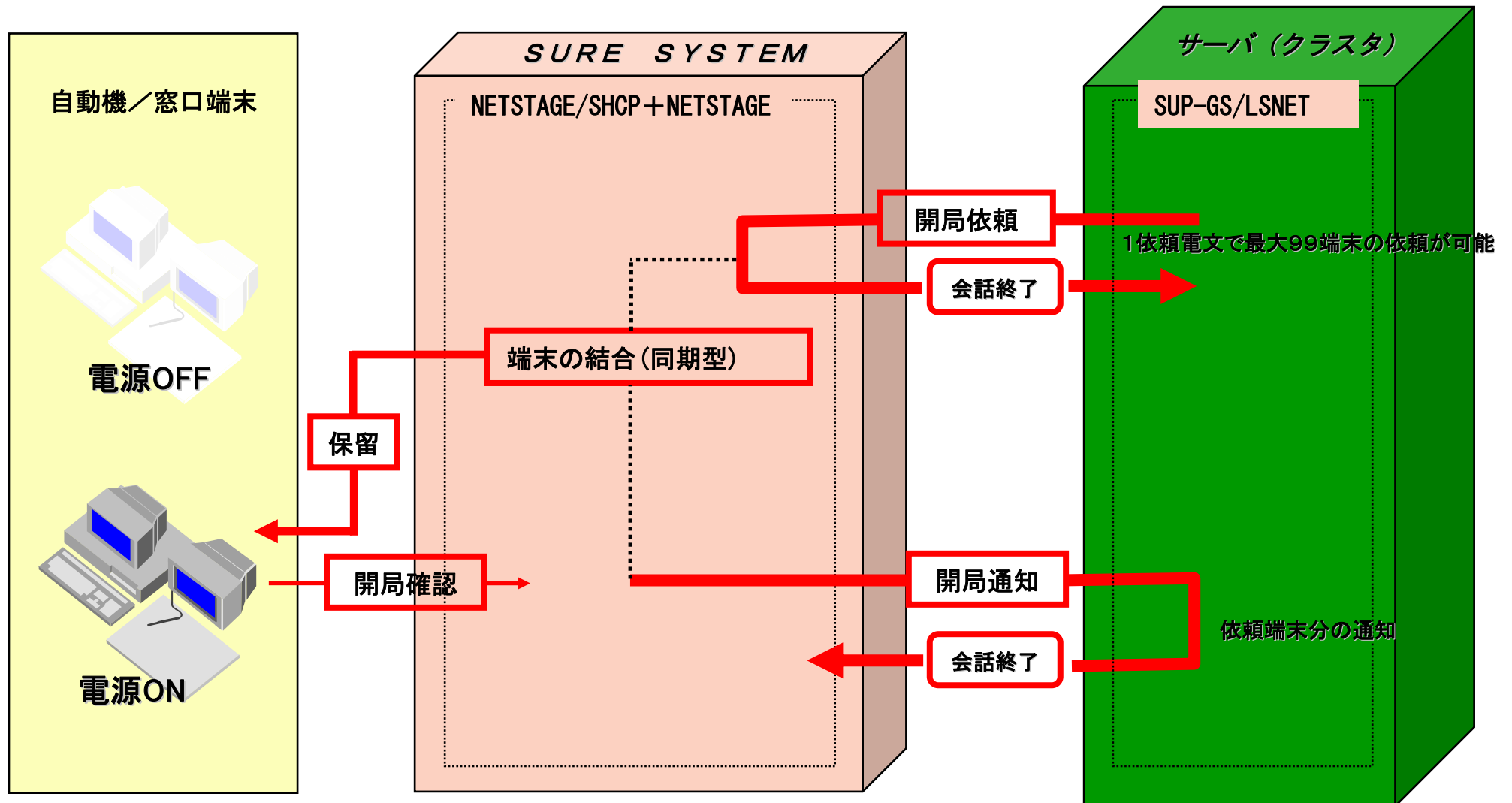
(2) 端末の結合/切断

① サーバ主導



(2) 端末の結合/切断

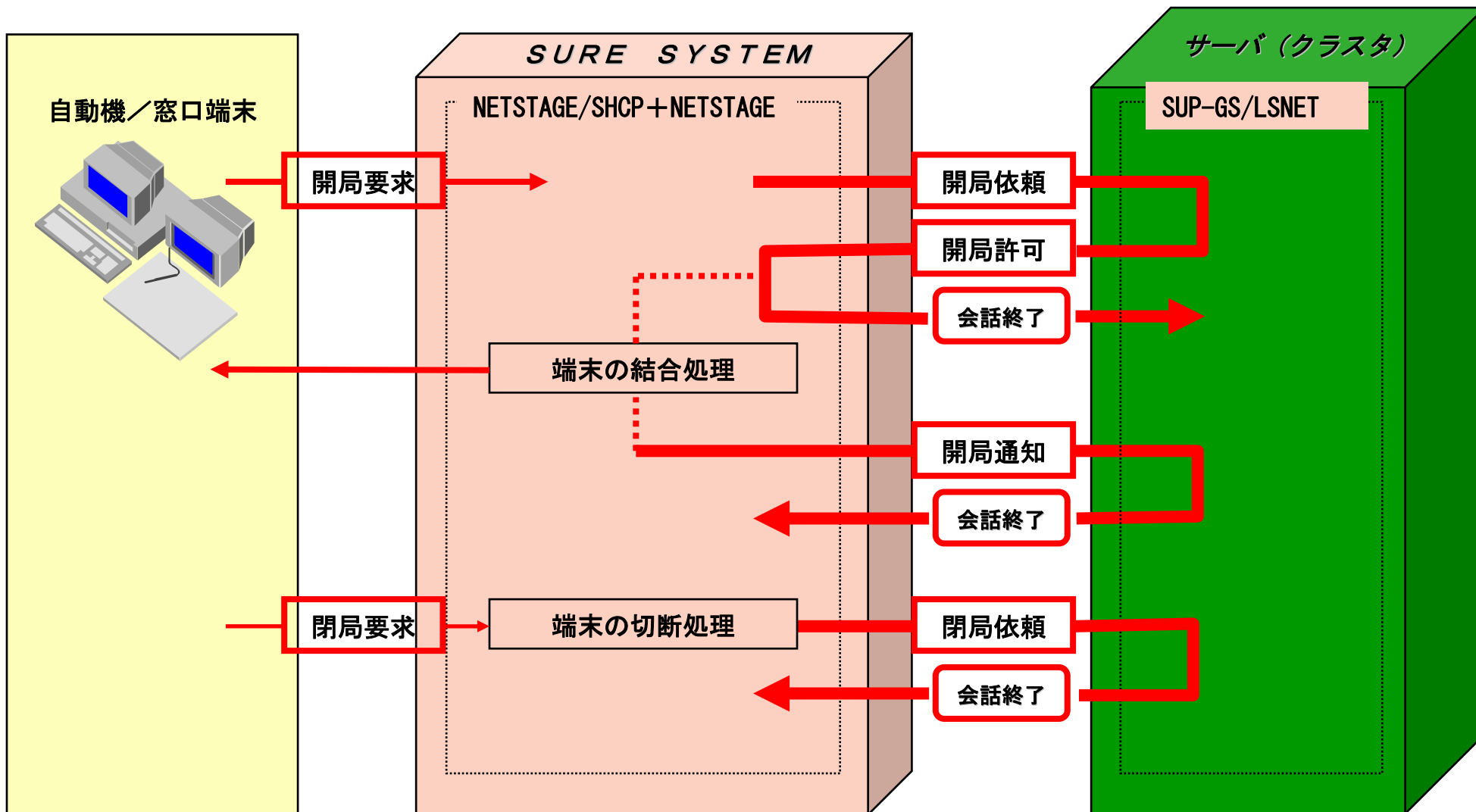
② サーバ主導(同期型SLOGON機能を使用した開局)



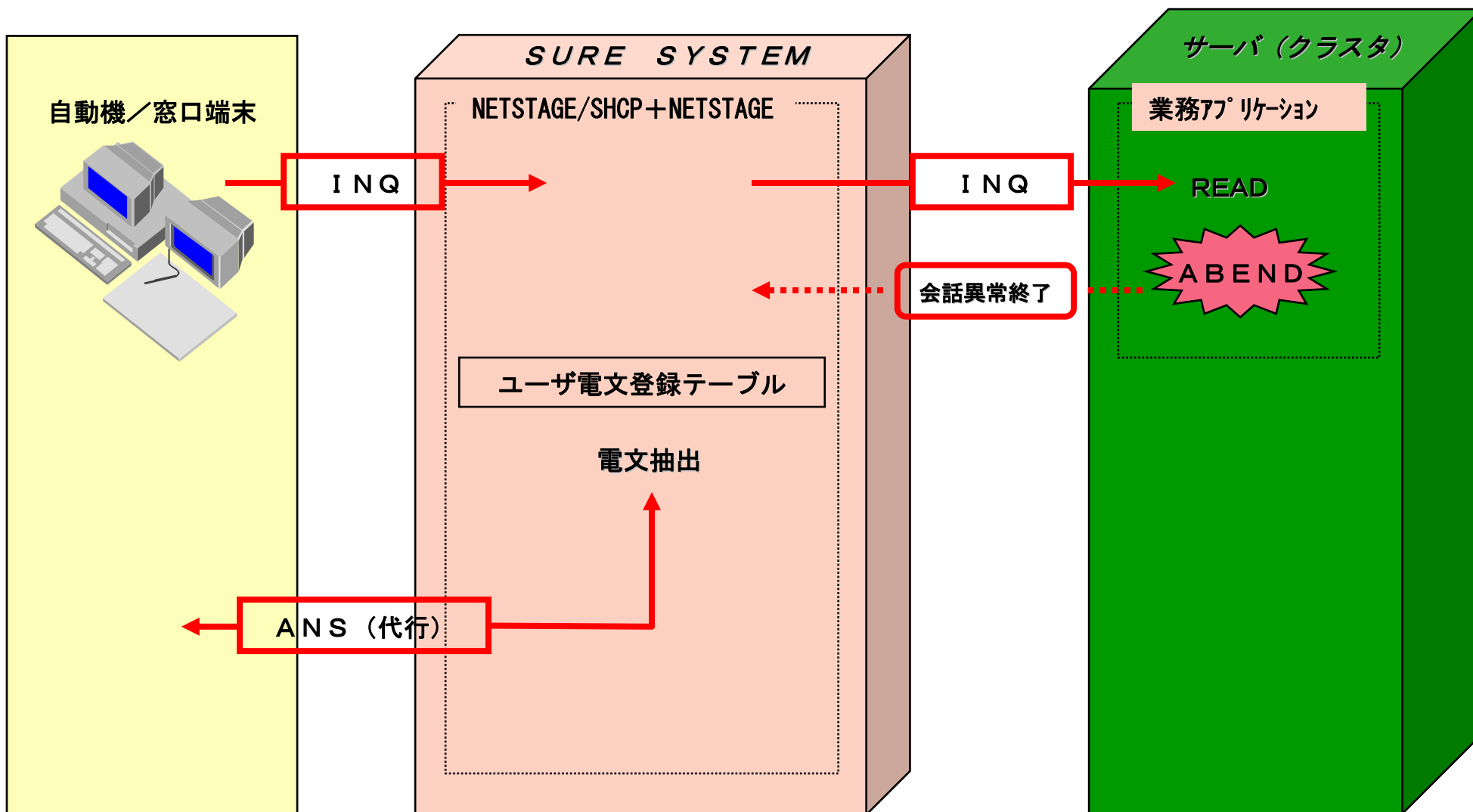
※同期型SLOGON機能は、オプション製品となります

(2) 端末の結合/切断

③ 端末主導



(3) 端末への代行応答



4. 機能構成

NETSTAGE/SHOP

トランザクション
振分機能

メッセージ振分/中継

—サーバ～端末間のメッセージ振分中継

ホットスタンバイ連携

—サーバ切替え時のメッセージ保留/再送

ユーザ出口インタフェース

—メッセージ中継ロジックの
組み込みインタフェース

端末制御

コネクション結合/切断

—端末コネクション操作及び端末コネクション
の結合/切断事象の通知 (SUPとのインタフェース)

端末障害管理

—端末障害事象の通知

障害端末の自動再結合

—障害端末のコネクション復旧

テストコール機能

—端末～SURE間のテストコール機能

FT機能

—SURE基本機能の利用によるFT化

5. NETSTAGE / SHCP 適用の留意点

(1) プロトコルヘッダ

- ・ SHCPは電文のプロトコル制御を以下のヘッダを付加することにより実現する。
- ・ GW (ゲートウェイ) ヘッダ ・ SHCPヘッダ
(サーバ～SHCP間は必須です。)

(2) ユーザ出口

- ・ SHCPは電文の解析や編集を行うためのユーザ出口のインタフェースを提供する
- ・ ユーザ出口はC言語及びCOBOLインタフェースを提供。
(ユーザ出口及び運用関連アプリ開発は弊社が有償で対応可能です)

(3) 必須ソフトウェア (OS, 通信制御を除く)

- ・ NETSTAGE ・ NETSTAGE / CM
- ・ NETSTAGE / TLS ・ DPCF
- ・ SOPCP ・ OTM
- ・ DEVJUNK ・ C言語 (SDUCを含む)
- ・ Power SORT

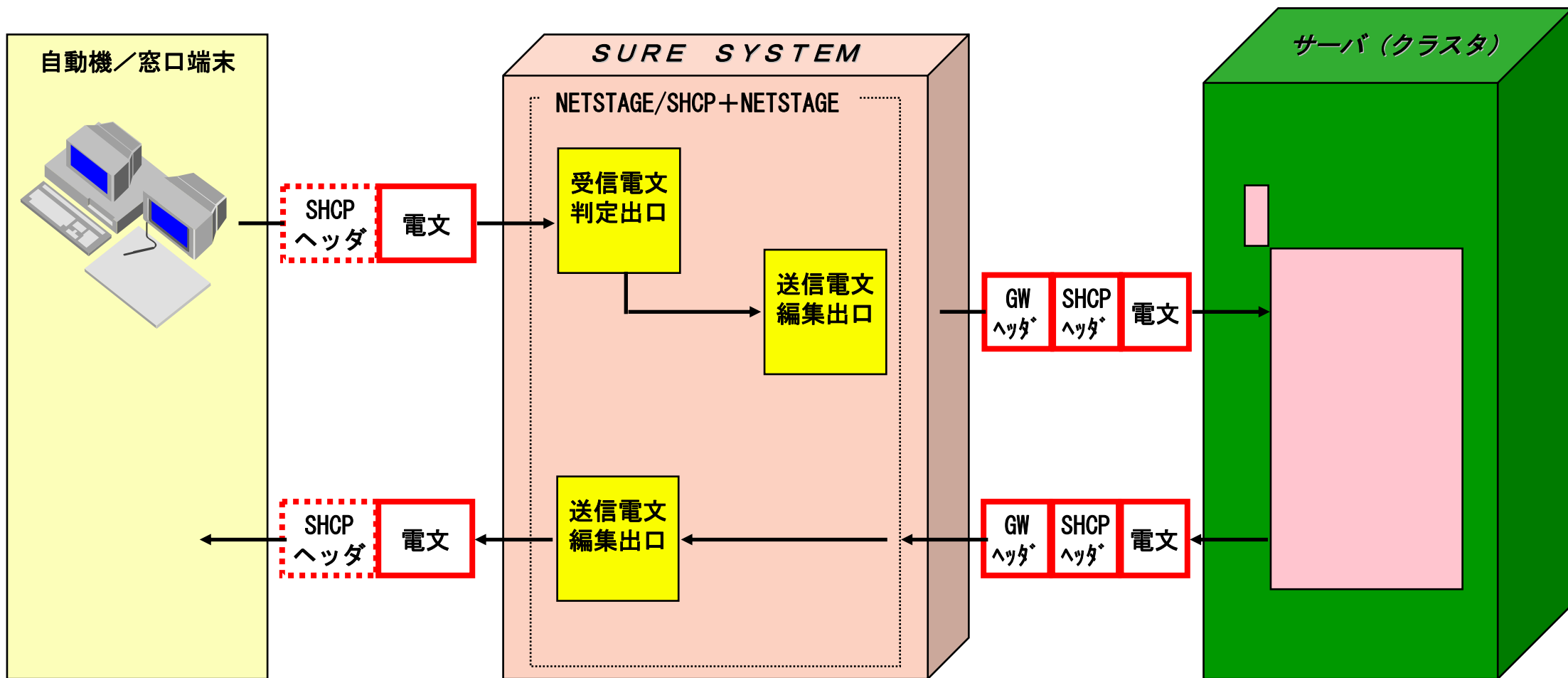
(4) 選択ソフトウェア

- ・ BCP / JLOAP ----- ユーザ出口でログを取得する場合
- ・ AUTOOP ----- 自動化運用を行なう場合
- ・ COBOL 85 ----- ユーザ出口をCOBOLで開発する場合
- ・ その他 ----- 通信プロトコルに応じて通信機能を選択する

6. 補足資料

(1) GWヘッダとSHCPヘッダによるプロトコル制御

①概要



注) 端末～SURE間はSHCPヘッダは無くても良い(無い場合は受信電文判定出口が必要)

② GWヘッダ

GW（ゲートウェイ）ヘッダはサーバ～SURE間のGWプロトコルのためのヘッダである。

メッセージ送信ヘッダの形式

0	ヘッダ種別		
4	ヘッダ長		応答要求フラグ
8	会話継続有無	伝送制御手順	送達確認フラグ
12	伝送制御情報		リザーブ
16	リザーブ	応答通知先アプリケーションのラム名長	
20	応答通知先アプリケーションのラム名		
36	文字コード	リザーブ	
40	端末数		端末名長
44	端末名（長さ＝端末数×端末名長）		

GW（ゲートウェイ）ヘッダにはメッセージ送信ヘッダ、メッセージ送信応答ヘッダ、端末制御ヘッダ、APPL名ヘッダ、切断理由ヘッダ等がある。

③ SHCPヘッダ

SHCPヘッダは本ソフトウェア固有の情報を設定するヘッダである。

SHCPヘッダの構成

制御部	固有情報	あて先情報	ユーザ側持ち回り情報	SHCP側持ち回り情報
-----	------	-------	------------	-------------

制御部、固有情報の形式

ヘッダ種別				制御部
電文種				
再送電文表示	リザーブ			
ヘッダ長				
メッセージ長				
セッション継続要否	セッション種別	送信確認要否	保留要否	固有情報
再送要否	タカ内持ち回り要否	タカ間持ち回り要否	自側異常通知要否	
相手側異常通知要否	リザーブ			
リザーブ				

③ SHCPヘッダ (続き)

SHCPヘッダの構成

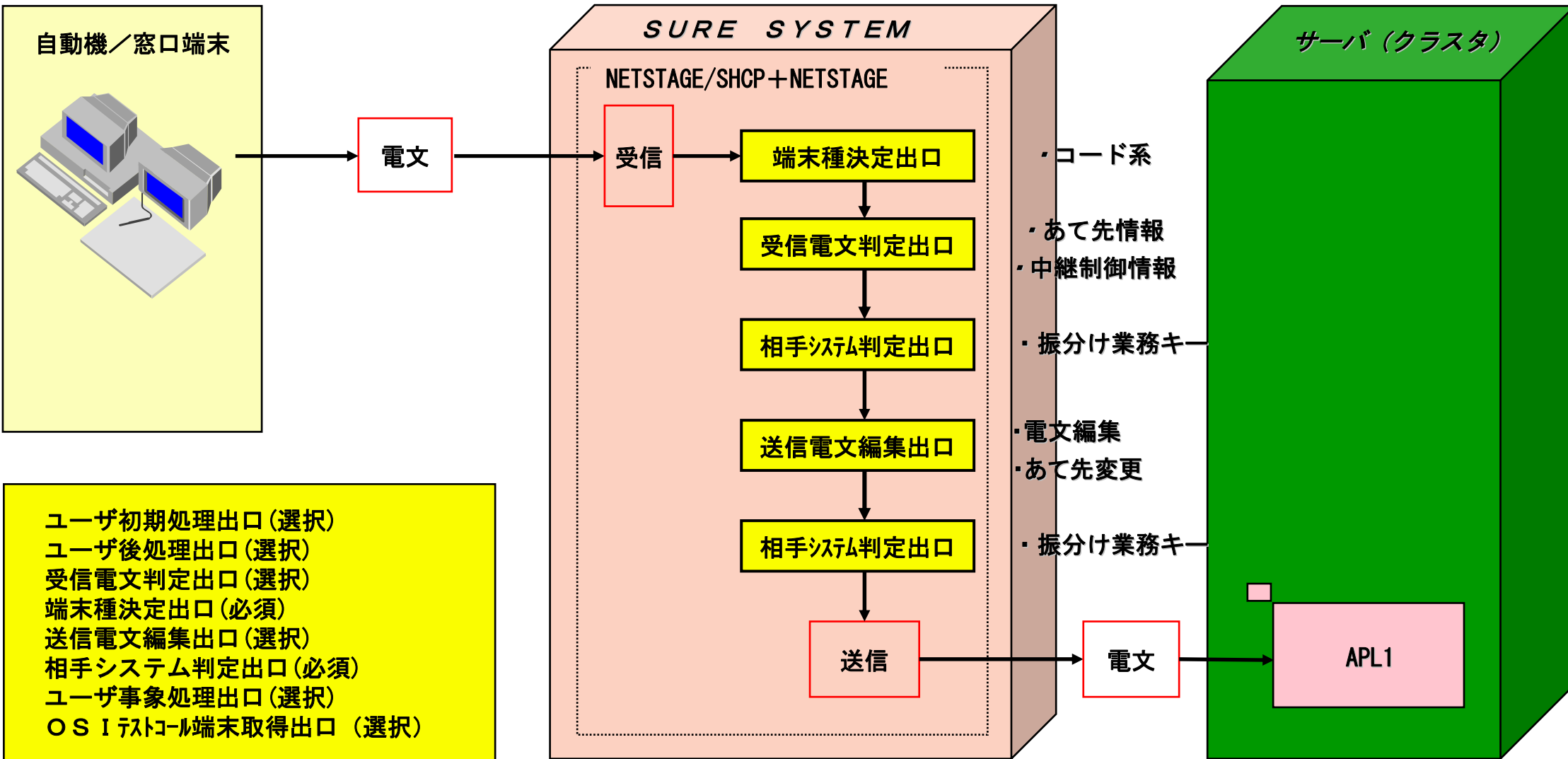
制御部	固有情報	あて先情報	ユーザ側持ち回り情報	SHCP側持ち回り情報
-----	------	-------	------------	-------------

あて先情報、ユーザ側持ち回り情報、SHCP側持ち回り情報の形式

相手システム名格納域長	あて先情報
相手システム名 [可変長]	
相手アプリケーションプログラム名長	
相手アプリケーションプログラム名 [可変長]	
ユーザ側持ち回りデータ長	ユーザ側持ち回り情報
ユーザ側持ち回り情報 [可変長]	
SHCP側持ち回りデータ長	SHCP
SHCP側持ち回り情報 [可変長]	

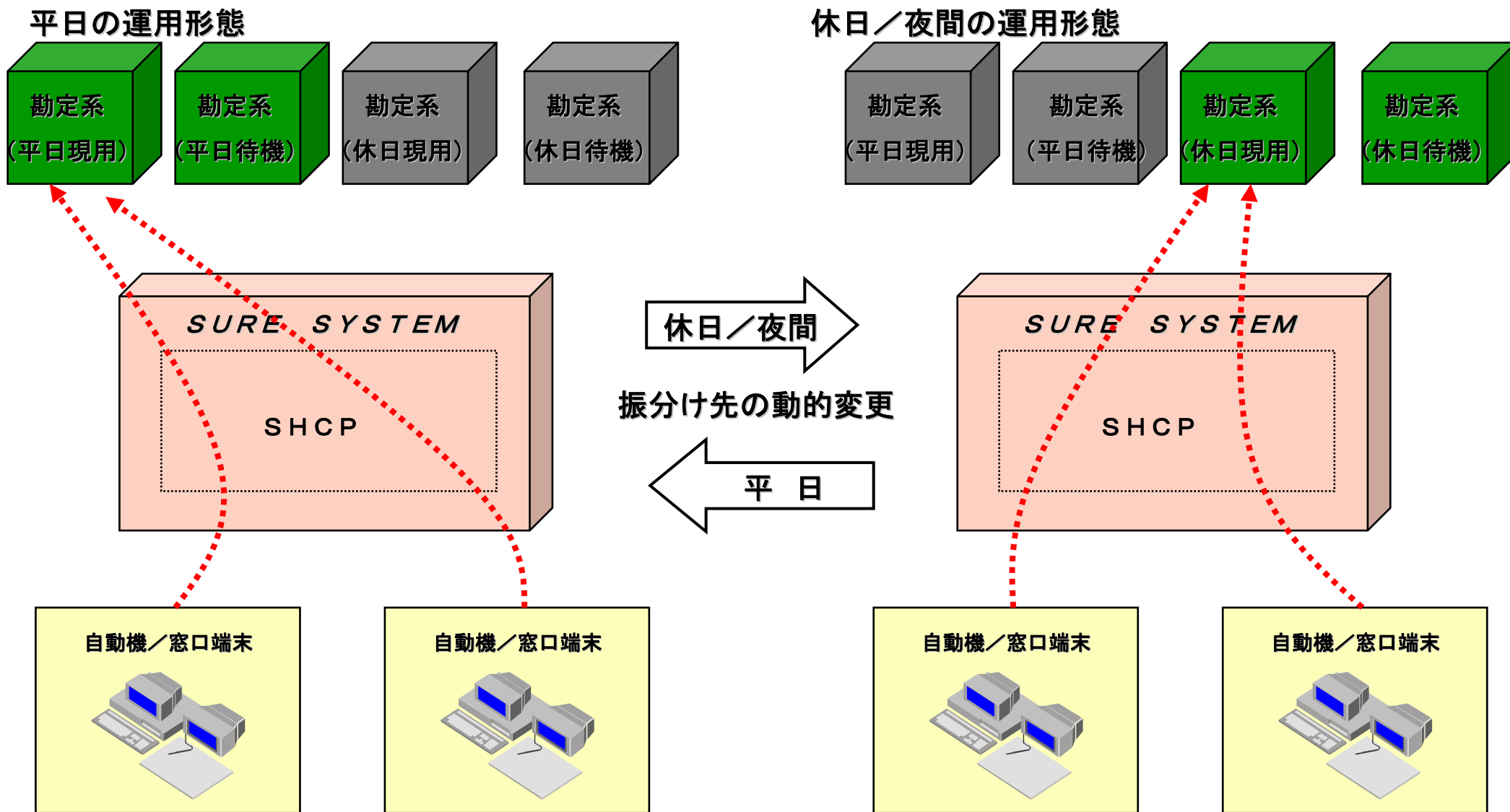
SHCPヘッダの固有情報とあて先情報は中継系電文と制御系電文で設定内容が異なる。

(2) ユーザ出口 (FNAの例)

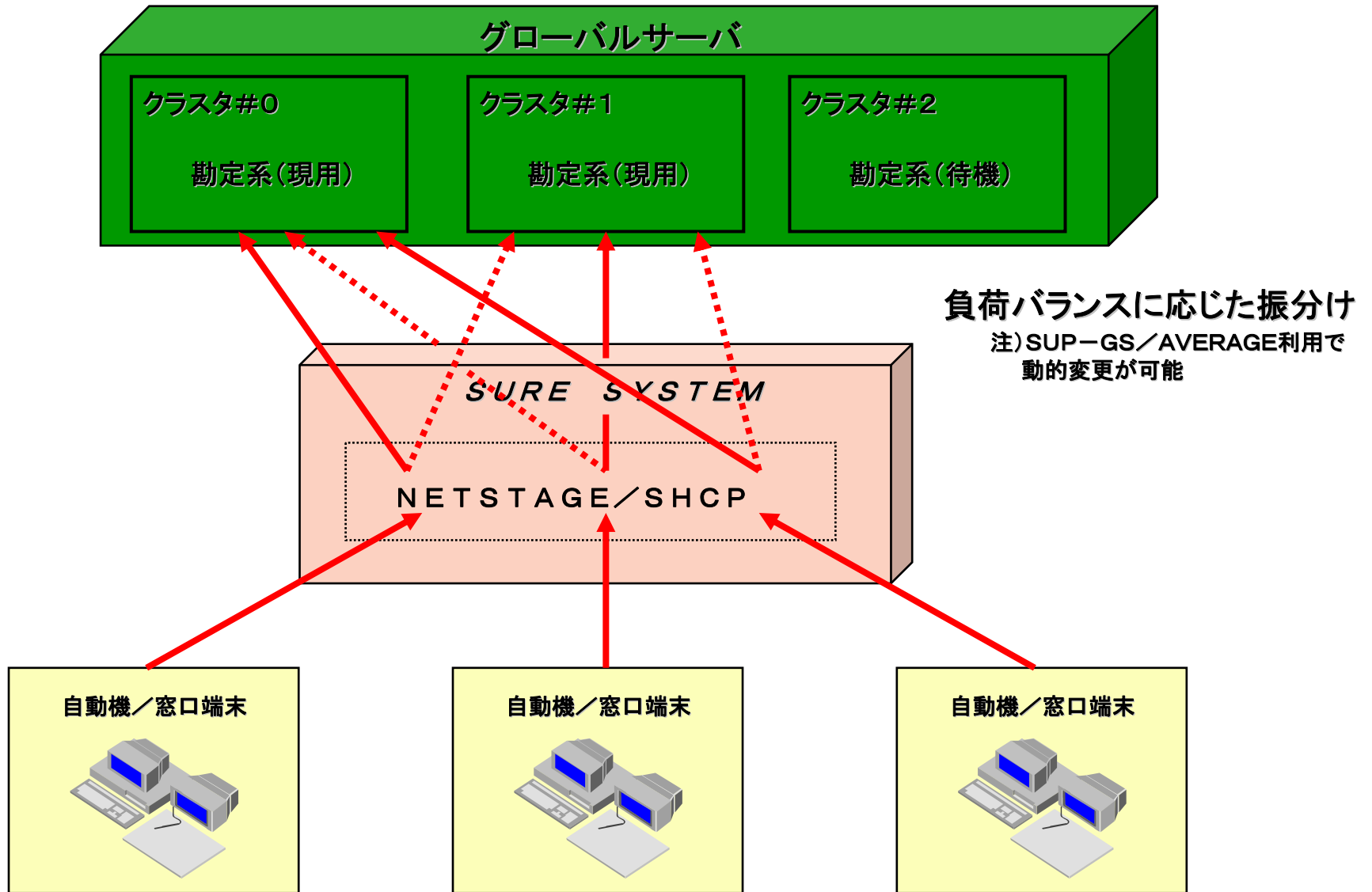


7. 適用事例

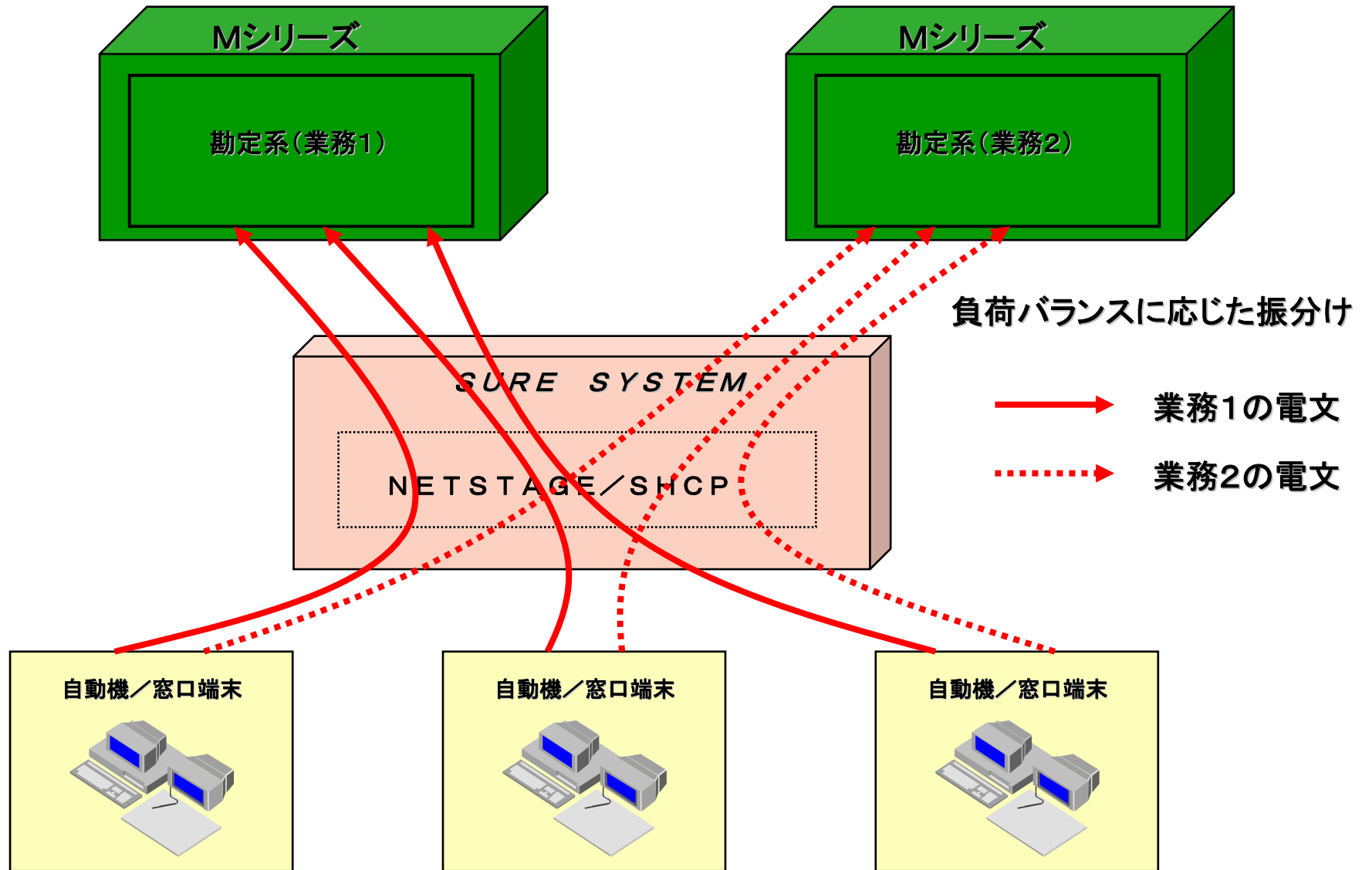
(1) A金融機関 [自動機の24時間サービス]




(2) B 金融機関 [ロードシェアシステムへの適用]



(3) C 金融機関 [業務別サーバへの適用]





FUJITSU

THE POSSIBILITIES ARE INFINITE